

はじめに

ボンネットセンサーはエンジンスターターによるエンジン始動でボンネットの開閉状態を検出するために必要です。取り付けることによりエンジンスターターの安全性が向上します。

取り付け手順

1. 車両のバッテリー端子（-）を外す。
2. ボンネットヒンジ付近の平面を選び、ボンネットセンサーを取り付ける場所の油やほこり等をきれいに拭き取る。
3. センサー裏側のセパレーターを剥がし、ボンネットセンサーを取り付ける。（センサーの矢印をボンネットの開く方向に合わせます）
4. アースケーブルを、車両アースに接続する。（ボンネット内のボディアースに接続するか、運転席内に導いてボディアースに接続してください）
5. ケーブルの水切り処理をして、グロメット等を利用してケーブルを運転席内に導く。（グロメットに通した後は、ブチルテープで防水処理をしてください）
6. ケーブル（スリーブ付き赤色線）とボンネットセンサーのギボシを接続する。接続後にスリーブを被せて絶縁処理をする。
7. CN2ハーネスのコネクタの指定した空き端子へ上記6のケーブル端子をしっかりと差し込む。
8. 車両のバッテリー端子（-）を接続する。
9. 機能を確認する。
 - 1) ボンネットを開けて、リモコンでエンジン始動。始動しない → OK
 - 2) ボンネットを閉めて、リモコンでエンジン始動、その後ボンネットを開ける。エンジンが止まる → OK
10. ケーブルを車両の可動部に触れたり、挟み込まれたり、垂れ下がらないようにインシュロックタイ等で結束処理をする。



警告

配線ケーブルは車両の可動部に触れたり、挟み込まれたり、垂れ下がらないように束線バンド等で結束処理をしてください。場合によっては断線、ショートが起り、ボンネットセンサーが正常に動作せず非常に危険です。

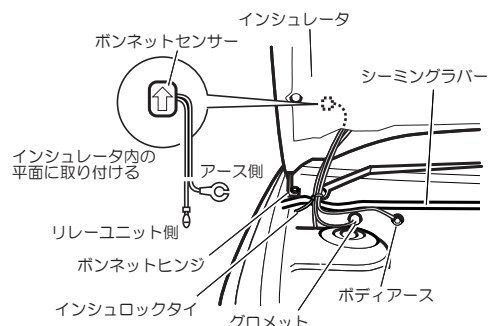
チェックポイント！

- 検出角度は水平面に大して、開く場合は10°以上、閉じる場合は5°以下です。
- センサーはできるだけボンネットフードのインシュレーター内に設置してください。
- グロメットにケーブルを通すときは、ギボシを突き刺すように使うとうまく通ります。

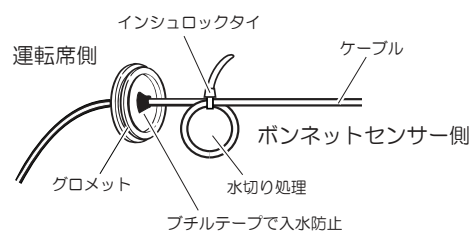
梱包内容

ボンネットセンサー：1 ケーブル（スリーブ付き赤色線）：1 エレクトロタップ：1
 インシュロックタイ：2 ブチルテープ：1 取付説明書：1

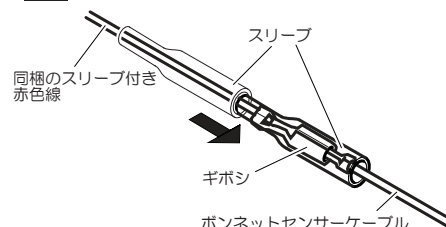
3 センサー取り付け例



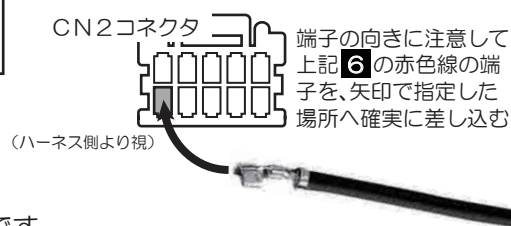
5 水切り処理の例



6 ケーブルの接続と絶縁処理



7 CN2コネクタへの接続



センサーの傾きとスイッチの関係

